



佐野 仁美さん
Sano Hitomi

さの・ひとみ / 甲佐町商工会
女性部部長。あゆまつりの一
大イベント「総盆踊り大会」
を盛り上げるため、演出や踊
りの指導などを担当。

〔岩下一区〕

夏の風物詩あゆまつり 盆踊りを踊って楽しんで

「あゆまつりで初めて盆踊りを踊ったのは、子どものころ。同年代の子どもやお母さんたちと一緒に踊った盆踊りは、本当に楽しかった」と祭りの思い出を話すのは、甲佐町商工会女性部の部長を務め

る佐野仁美さん。

同部は、毎年7月に開催される本町の夏の風物詩「あゆまつり」の一大イベント「総盆踊り大会」の演出や踊りの指導などに大忙し。大会当日にはチームとしても参加し、30

代から70代までの部員が、息の合った踊りを披露している。佐野さんは、おとしと昨年大会の司会進行を担当し、見物客にも飛び入り参加を呼び掛けた。「以前、子どもと一緒に親子会として参加していたとき、『子どもの卒業で、来年から踊れなくなるのが寂しい』という人がいたんです」と振り返り、「そういう人は結構多いんじゃないで

しょうか。恥ずかしいかもしれないけど、飛び入り参加は大歓迎。あゆまつり当日は、女性部の後ろなどに入って踊ってほしい」と話す。

盆踊りを上手に踊ることは、曲の雰囲気に合わせて踊ること。『甲佐音頭』は、優しい感じの曲だから、手の動きなどに柔らかさを出すときれい。逆に『火の国太鼓』は男踊りだから、勇ましく。足を開くときは思いっきり開いたり、手を大きく挙げたりして、元気に踊るといいです」と佐野さん。また、「緊張した顔で踊るよりも、笑顔で楽しく踊ったり、掛け声を出したりすることもポイントです」とアドバイス。

ピーク時は約1,000人いた参加者も、最近は600人弱に減少。「踊り手がだんだん減ってきていますが、1年に1回の甲佐のお祭り。花火大会に行く前に、ぜひ一緒に盆踊りを踊って楽しんでほしい」と、参加者はもちろん見物客の思い出に残るあゆまつりを目指している。

広報 こうき

2013年（平成25年）7月号
通巻528号